

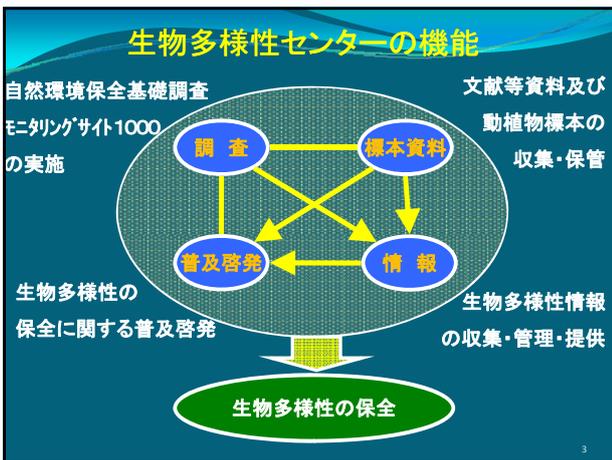


第三次生物多様性国家戦略(H19.11)における情報整備に関する行動計画

第2部 行動計画

第5節 情報整備・技術開発

1. 生物多様性の総合評価
2. 調査・情報整備の推進
 - ・自然環境保全基礎調査等の推進
 - ・生態系総合監視システムの構築
 - ・野生生物目録・標本情報の整備
 - ・自然環境情報の提供・公開
 - ・情報拠点の整備・体制強化
 - ・地球規模生物多様性情報機構(GBIF)の推進
 -
3. 研究・技術開発の推進



生物多様性センターにおける情報整備

1. 情報の収集・保存
 - ・自然環境保全基礎調査
 - ・モニタリングサイト1000
 - ・標本・資料
2. 情報の提供
 - ・生物多様性情報システム(J-IBIS)
 - ・インターネット自然研究所
 - ・生物多様性情報クリアリングハウスメカニズム(CHM)

自然環境保全基礎調査の実施項目

陸域		海域	
植物	植生・植物群落	植生	海岸改変 干潟・藻場・サンゴ礁分布
	植物種	特定植物群落 巨樹・巨木林	海洋生物
動物	動物種	目録	海域生物環境
	動物種	分布	干潟・藻場・サンゴ礁生物相
地形・景観・その他	地形地質・自然現象	身近な生きもの	海洋生物分布
	表土改変状況		海棲動物分布
	自然景観資源		海の生きもの
	歴史的な自然環境		
陸水域		生態系・総合	
河川・湖沼・湿地		生態系量的把握(環境害与度)	
		生態系モニタリング	
		生態系多様性地域調査	
		遺伝的多様性	
		遺伝的多様性	

自然環境保全基礎調査のデータ

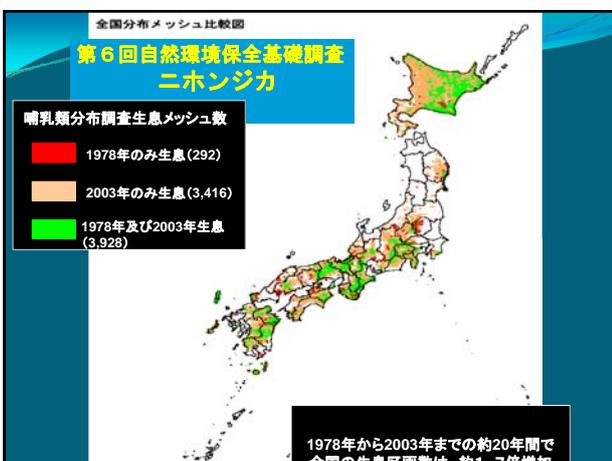
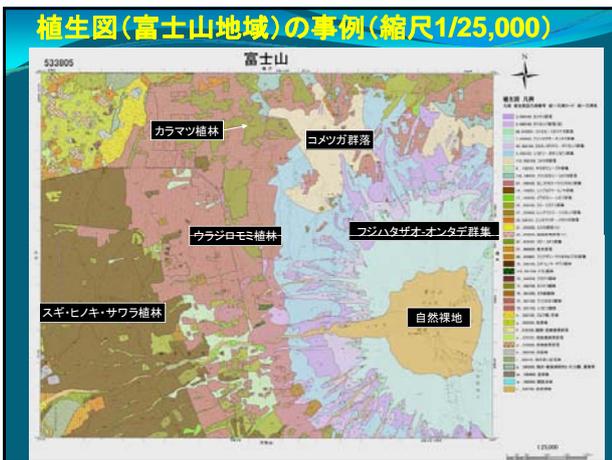
- ・現存植生
- ・特定植物群落
- ・巨樹・巨木林
- ・動植物分布情報
- ・河川、海岸、湖沼
- ・湿地、藻場、干潟、サンゴ
- ・自然景観(類型)
- ・保護地域
 - 国立・国定公園
 - 自然環境保全地域
 - 国指定鳥獣保護区 等

現存植生図の精度の向上 (第6回自然環境保全基礎調査)

- 1 環境影響評価や地域計画のベースマップ
 - 基図は1/25,000 (全国約4,500面)
- 2 都道府県毎、図幅毎のばらつきを是正
 - ブロック別調査体制(全国8ブロック)
 - 全国的精度管理を毎年継続実施
- 3 新技術の積極的導入
 - 作図段階におけるGISの導入 等

第6・第7回植生調査(H11~)

第2~5回調査による植生図 原図縮尺は1/50,000 → 同じ範囲の第6回調査による植生図 原図の縮尺は1/25,000



モニタリングサイト1000の枠組み

目標

わが国の代表的生態系の状態を把握し、継続的にモニタリングすることで、種の減少、生態系の劣化など、自然環境の異変をいち早く捉え、適切な生物多様性保全施策に貢献する。

目標達成のための課題

1. 生態系を把握するための調査地点配置、調査手法等確立
2. 持続的な調査体制構築と技術向上
3. 生物多様性保全施策への活用
4. 情報発信と事業への国民の理解向上

各生態系タイプと調査項目

タイプ	区分	実施体制	基礎情報	指標生物	
陸域	森林	コア	大学研究機関	植生概況 生長、生産量	鳥類、地表徘徊性甲虫
		一般	野鳥の会、 地域NGO等	植生概況	鳥類
	里地里山	コア	地域NGO	植生、植物相、水 環境、人為的影響	鳥類、カヤネズミ、カエル、 チョウ、ホタル、夜行性動物
		一般*	地域NGO等		
陸水域*	地域NGO等		植生概況	ガン・カモ類(湖沼)	
沿岸域	砂浜	自治体、地域 NGO等	砂粒度組成、海岸 侵食、後背地植生	ウミガメ	
		地域NGO等			
	干潟*	地域NGO等	干潟概況	シギ・チドリ類	
	養魚場*	研究者等			
	サンゴ礁	研究者、専門 調査機関	サンゴ被度、生育 型、加入、白化率、 セディメント堆積	大型定着性魚類、オニヒトデ、 サンゴ食性巻貝	
小島嶼	専門調査機関	植生概況	海鳥		

*: 平成19年度に調査項目と手法を確定予定。一部指標生物については先行して調査実施。

モニタリングサイトの配置

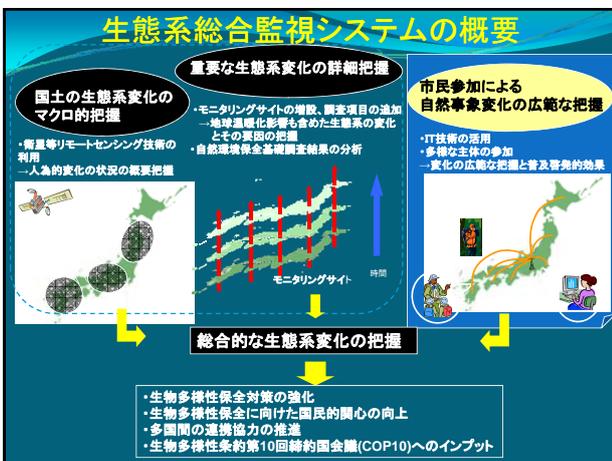
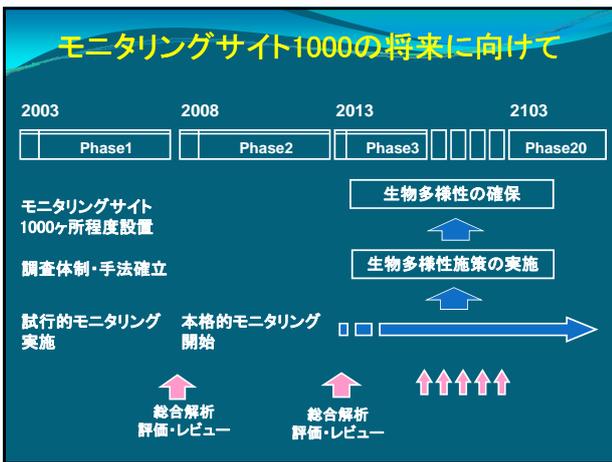
サイトの配置基準

- ・陸域は気象、地形等の違いにより区分した10区域(生物多様性保全のための国土区分)に、海域は海域区分を踏まえ均等配置
- ・わが国の生態系タイプを網羅し配置

生態系タイプ	区分	数
● 森林	コア	43
	一般	422
● 里地	コア	18
● 陸水域	コア	1
	一般	81
○ 干潟養魚場等		167
○ サンゴ礁		24
○ 小島嶼		28
合計		824

モニタリングサイト 1000

*: 重複サイトを除く平成19年3月の合計。



生物標本の収集

標本収集3つの方針

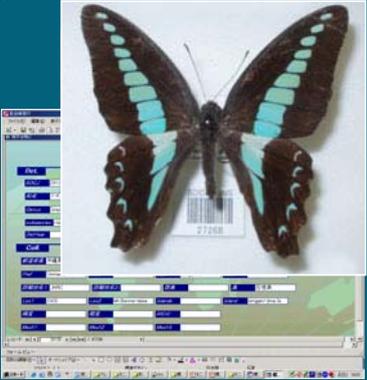
1. 日本の生物多様性を後世に伝える
 - ・固有種や地域変異のある種の標本
 - ・希少生物の標本
2. 日本の自然的な重要地域の生物相を顕す
 - ・国立公園などの重要地域を特徴づけている、固有種を含む標本
3. 生物多様性への理解を深める
 - ・生物多様性の脅威となっている外来生物の標本

現在の標本数

哺乳類28点、鳥類41点、両生爬虫類22点、昆虫類51,829点、維管束植物4,700点、藻類404点、外来生物50点

生物標本の保管

1. 標本管理
 - ・標本害虫の防除等
2. 標本情報の管理
 - ・標本情報データベース
種名、採取場所、採取年月日 等
 - ・バーコードシステム



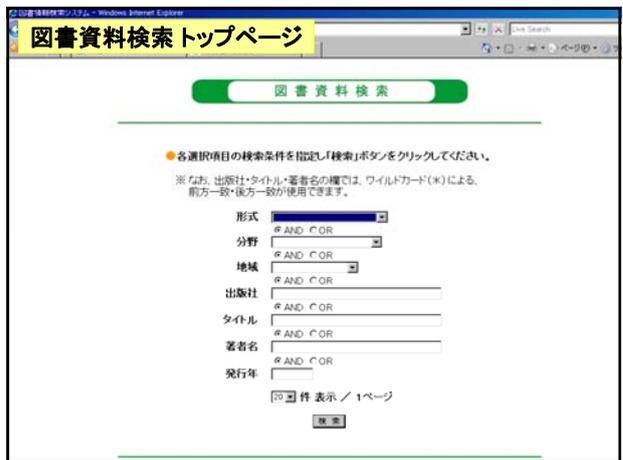
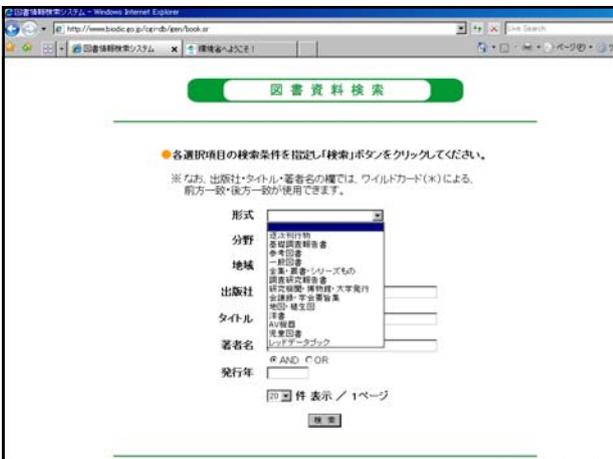
標本の利用

1. 生物多様性理解のための普及啓発
 - ・標本展示
 - ・各種イベントで一般公開
2. 生物多様性保全のための調査研究
3. 地球規模生物多様性情報機構
GBIF (Global Biodiversity Information Facility)
 - ・標本データ登録



図書資料の収集と検索

1. 図書資料の収集方針
 - ・基礎調査報告書
 - ・各地方文献
 - ・定期刊行物
 - ・一般図書、図鑑
 - ・海外文献 等
2. 蔵書の総数
約23,000点
3. 情報提供
 - ・来館者への閲覧
 - ・HP上での検索システム


生物多様性情報の管理・提供

わが国の生物多様性に関する情報が広く活用されるよう、IT技術を活用して管理・提供を行う

- 各種調査結果等のデータベースによる管理
- インターネット等によって広く国民に提供



J-IBIS 生物多様性情報システム



インターネット自然研究所



生物多様性クリアリングハウスメカニズム

生物多様性情報システム (J-IBIS)

略称: J-IBIS (Japan Integrated Biodiversity Information System)

→ 自然環境保全基礎調査成果等、生物多様性に関する情報を総合的に収集・管理・提供する情報システム

収集

各種調査成果等の収集



報告書等
調査票・地図・図面等

管理

調査成果をデータベースにより管理



・データベース
・電子地図情報 (GISデータ)
・電子報告書 (html・PDFファイル等)

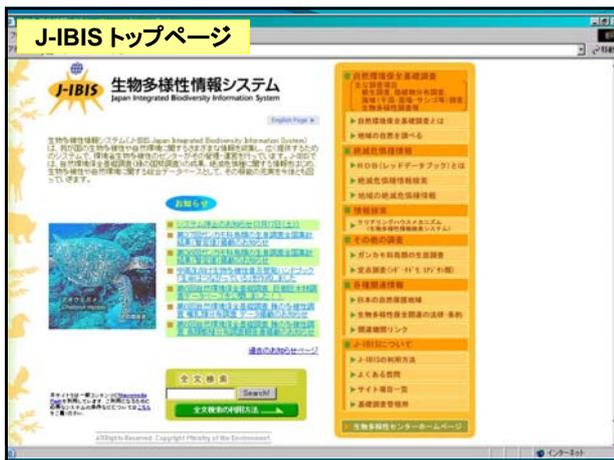
提供

インターネット上で国民に提供



表示・解析機能を用いた提供
データベースによる提供

J-IBIS トップページ



生物多様性情報システム (Japan Integrated Biodiversity Information System) のトップページ。検索機能、最新情報、お問い合わせなどのメニューが並ぶ。

Web-GISによる分布図の表示 (植生調査、藻場・干潟調査の重ね合わせ)



Web-GISによる分布図の表示 (植生調査、藻場・干潟調査の重ね合わせ)。地図上で異なる調査データを重ねて表示している様子。

Web-GISによる分布図の表示 (植生調査、巨樹・巨木林調査の重ね合わせ)



Web-GISによる分布図の表示 (植生調査、巨樹・巨木林調査の重ね合わせ)。植生調査と巨樹・巨木林調査の結果を重ねて表示している様子。

Web-GISによる分布図の表示 (属性情報の表示)



Web-GISによる分布図の表示 (属性情報の表示)。地図上の特定の要素を選択し、その属性情報を表で表示している様子。

属性名	属性値
行政区町村名	山形県最上郡
名称	山形県最上郡
緯度	36.00以上
経度	139.00
面積	2.25
樹種名	スギ
幹周囲	340
樹高	47.5
樹種名	スギ
幹周囲	540
樹高	36.5